

## 運営評価のシステム（H27）

使命	目標	指標	参考資料
I 美術を通じた交流を促進する			【集客・交流推進】
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。			〔広報〕
達成目標	・年間観覧者数100,000人以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間観覧者数(年度別推移)</li> <li>・年間来館者数(年度別推移)</li> <li>・駐車場利用状況(年度別推移)</li> <li>・来館回数(年度別推移) *リピート率</li> <li>・居住地域(年度別推移) *市民率</li> <li>・交通手段(年度別推移)</li> </ul>	
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。</li> <li>・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。</li> <li>・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。</li> <li>・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。</li> <li>・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種メディアへの掲載実績</li> <li>・訴求活動の概要(ポスター等配布、リリース発送の状況)</li> </ul>	
② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。			〔市民協働〕
達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,000人(事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業ごとの開催回数、参加者数の一覧</li> <li>→サボボラ研修</li> <li>所蔵品展ギャラリートーク(参加者数、参加ボランティア数)</li> <li>小学校鑑賞会補助(参加ボランティア数のみ)</li> <li>ワークショップ補助(参加ボランティア数のみ)</li> <li>プロジェクトボランティア会議</li> <li>プロジェクトボランティアイベント(参加者数、参加ボランティア数)</li> </ul>	
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。</li> <li>・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア関連事業の概要</li> <li>・(ボランティアの感想・反応)</li> </ul>	
II 美術に対する理解と親しみを深める			【社会教育】
③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。			〔展覧会・教育普及〕
達成目標	・企画展の満足度80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各企画展の満足度</li> <li>・所蔵品展の満足度(年度別推移)</li> <li>・谷内六郎展の満足度(年度別推移)</li> </ul>	
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。</li> <li>・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。</li> <li>・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。</li> <li>・所蔵図書資料を充実させる。</li> <li>・利用する人が快適に過ごせるよう、図書室の環境を整える。</li> <li>・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各企画展(児童生徒造形作品展を除く)の概要(ねらい、担当者の感想・反省点)</li> <li>・所蔵品展の概要(同)</li> <li>・谷内六郎展の概要(同)</li> <li>・講演会・アーティストトーク等の実施状況(同)</li> <li>・大人向けワークショップ等の実施状況(同)</li> <li>・図書室の概要(図書新規購入額・点数、寄贈図書の点数)</li> <li>・図書室の利用状況(利用者の月別推移、担当者の感想・反省点)</li> <li>・学芸員による論文、発表等</li> </ul>	

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。		[若年層への教育普及]
達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人	・観覧者数の券種別内訳(月別推移、年度別推移) ・子どもを対象とした教育普及事業の参加者数(延べ人数の年度別推移)
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 ・小学校鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。 鑑賞会と連動した教材「アートカード」のいっそうの活用促進を教員と協力しながら行う。	・児童生徒造形作品展の概要(担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・小学校美術館鑑賞会の概要(実施内容、学校数、児童数、対応職員・ボランティア数、担当者の感想・反省点)(学校側の反応) ・中学生のための美術鑑賞教室の概要(実施内容、担当者の感想・反省点)(生徒の感想) ・子ども向けワークショップ等の実施状況 ・研修等の受入れ状況
⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。		[収集管理]
達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	・作品収集の状況 ・保管環境の状況 ・所蔵作品の修復状況 ・所蔵作品の貸出状況(件数、点数)
Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する		[運営・管理]
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。		[メンテナンス・来館者サービス]
達成目標	・館内アメニティ満足度90%以上 ・スタッフ対応の満足度80%以上	・アメニティ関連各項目の満足度(年度別推移) →全般・館内印象・館内環境・休憩所・トイレ・清掃 ・スタッフ対応の満足度(年度別推移)
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、じゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	・メンテナンスの概要 ・運営事業者連絡会議の概要(議題等) ・ケータリング実績
⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。		[バリアフリー]
達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ400人以上	・福祉関連事業の開催回数、参加人数 →福祉関連講演会 福祉関連ワークショップ 福祉関連パフォーマンス 障害児を対象としたワークショップ
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう(環境づくりのための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。	・福祉関連講演会の概要 ・福祉関連ワークショップの概要 ・福祉関連パフォーマンスの概要 ・障害児を対象としたワークショップの概要 ・託児サービスの概要 ・養護学校等の受け入れ状況
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する		[経営的視点]
達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値以下とする。	・エネルギー消費量一覧
実施目標	・職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	・歳入及び歳出の内訳